



WAKACHIKU

若築建設

<http://www.wakachiku.co.jp/>



UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

環境・社会報告書 2015

Environmental and Social Report



豊かな未来へ 技術のメッセージ
若築建設

CONTENTS

ごあいさつ	2
若築建設について	3
完工工事紹介	4

震災からの復興

牡鹿半島 寄磯漁港	5
主な震災復興工事	7

トピックス

多点同時注入工法	9
技術研究所 再整備	11
貞山運河 桜植樹会	12
わかちく史料館 企画展	12

マネジメント体制

コーポレート・ガバナンス	13
マネジメントシステム	15

環境活動

環境データ	17
温暖化ガス排出量の削減	19
再生可能エネルギー関連工事	20

特集

女性技術者座談会	21
----------	----

社会活動

活き活き職場の創造	25
安全な施工のために	27
災害にそなえて	28
地域社会とともに	29

報告書について

対象組織 若築建設株式会社
対象範囲 若築建設株式会社の事業活動
対象年度 2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)
ただし、一部2015年8月までの情報も含みます。
発 行 2015年10月
参考資料 「環境報告ガイドライン(2012年版)」環境省

作成部署およびお問い合わせ先

この報告書に関するご意見・お問い合わせは、下記で承っております。

総合システム部
TEL.03-3492-0280 FAX.03-3490-1019

表紙：本店（九州）



ごあいさつ

総合力で社会に貢献し、信頼に応える



代表取締役社長

五百歳 良平

近年、我が国では、洪水や土砂災害など自然災害がくり返し発生し、大きな被害をもたらしています。また、大規模地震の発生も懸念されています。このような中、当社は、社会インフラ整備の一端を担う建設会社として、皆さまの生活や安全を守る施設の構築に全社一丸となって取り組んでおります。

総合力で期待に応える

当社は2015年度を初年度とする「中期経営計画(2015~2017)」を策定しました。持続的な成長を通じ更なる事業基盤の強化を図る3ヶ年と位置づけ、「土木事業を中心とし、建築事業の収益力の強化、海外事業の収益基盤の確立により経営の安定化を図る」を基本方針としています。

社内の連携により組織力と全員の力を集結し、技術と経験に基づく総力を最大限活用するとともに、優秀な人材の確保・育成や技術力の強化等も推進し、皆さまのご期待に応えてまいりたいと考えております。

技術力でお客様のニーズに応える

昨年建造した作業船「若鷺丸」は、西日本を中心に施工実績を積み重ねています。ハイブリッド駆動システムや浚渫精度向上の施工管理システムなど最新

技術を備え、環境に配慮し精度の高い施工を行うことで港湾整備に貢献できるものと考えております。

また今年7月には技術研究所を再整備し、大型実験水槽などの設備が使用可能な研究・開発体制を整えました。研究内容として、環境対応関連の技術開発、国土強靭化に対応した構造物の研究開発、構造物のリニューアルに関する技術開発などを取り上げ、お客様のニーズに迅速に対応してまいります。

継続した活動で社会に貢献する

社会貢献活動につきましては、全国で幅広くおこなっており、昨年は宮城県貞山堀の桜植樹や青い羽根募金などで皆さまから感謝のお言葉をいただきました。このような活動は、当社の品質環境方針の中に「社会への貢献」を掲げているとおり、今後も継続してまいります。

本報告書は、当社における環境および社会的な取り組みを中心に、2014年度の活動実績をとりまとめたものです。ご一読いただき、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

2015年10月

若築建設について

創業 ~地域の発展をめざして~

明治時代初期の北九州は、石炭埋蔵量の豊富な筑豊炭田を擁するものの、石炭など物資の輸送問題が地域発展の障害となっていました。

当社は、明治23年、地域の発展をめざす地元の有志たちが発起人となって、海上交通の要衝である洞海湾とその周辺運河の改良を目的に立ち上げたものです。工事費用は港や運河を利用する船舶から使用料を徴収して賄うという条件で、福岡県知事の許可を受け、改良工事に着手しました。そして、徐々に港の整備が進み、明治34年には、八幡村（現・北九州市八幡東区）に官営八幡製鉄所が開設されたことを契機に、洞海湾を中心とする地域は、北九州工業地帯として発展していきました。

これは明治時代に洞海湾開発の測量基準点として設けられたものです。



本店に残る洞海湾開発の基準点

会社概要

■商号 若築建設株式会社 [WAKACHIKU CONSTRUCTION Co., Ltd.]

■創立 明治23年(1890年)5月23日

■代表者 代表取締役社長 五百蔵良平

■資本金 113億7千4百万円

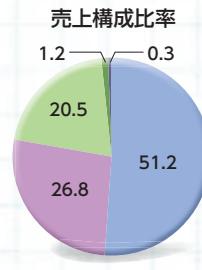
■株式上場 東京証券取引所第一部

■従業員数 629名(2015年3月31日現在)

■売上高 690億円(2014年度)

■受注高 837億円(2014年度)

■事業内容 国内・国外建設工事、海洋開発、地域・都市開発、環境整備・保全およびその他建設に関する事業、建設コンサルティング、マネジメント事業、不動産事業



■海上土木
■陸上土木
■建築
■不動産
■開発事業等

事業所一覧

本店	〒808-0024 北九州市若松区浜町一丁目4番7号	TEL (093)761-1331
東京本社	〒153-0064 東京都目黒区下目黒二丁目23番18号	TEL (03)3492-0271
東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町二丁目10番28号	TEL (022)221-4325
千葉支店	〒260-0027 千葉市中央区新田町4番22号	TEL (043)242-2245
東京支店	〒153-0064 東京都目黒区下目黒二丁目23番18号	TEL (03)3492-0811
横浜支店	〒231-0015 横浜市中区尾上町一丁目6番	TEL (045)662-0814
北陸支店	〒950-0087 新潟市中央区東大通一丁目2番23号	TEL (025)241-1242
名古屋支店	〒460-0003 名古屋市中区錦一丁目11番20号	TEL (052)201-5321
大阪支店	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町二丁目2番8号	TEL (06)6261-6736
中国支店	〒730-0031 広島市中区紙屋町一丁目3番2号	TEL (082)248-1810
四国支店	〒760-0071 高松市藤塚町一丁目2番1号	TEL (087)833-7347
九州支店	〒808-0024 北九州市若松区浜町一丁目4番7号	TEL (093)752-3510
福岡支店	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東一丁目13番9号	TEL (092)483-5307
海外事業所	ジャカルタ事務所(インドネシア共和国) コロンボ事務所(スリランカ民主社会主义共和国) ハノイ事務所(ベトナム社会主义共和国) ヤンゴン事務所(ミャンマー連邦共和国) ディリ事務所(東ティモール民主共和国) マレ事務所(モルディブ共和国)	
わかちく史料館	〒808-0024 北九州市若松区浜町一丁目4番7号 当社本店3階 開館時間 午前10時～午後4時 休館日 毎週月曜日・祝祭日・年末年始 入館料 無料	TEL (093)752-1707



東京本社



わかちく史料館



2014年度 完成工事紹介

海上土木



自社船「若鷺丸」

関門航路(六連島西側地区)航路(-15m) 浚渫工事【発注者：国土交通省】

下関市と北九州市の間にある関門航路は、関門海峡を縦貫する全長約50kmの細長い水路で、響灘海域と周防灘海域で生じる潮位差により潮流が発生し、海上交通の難所となっています。

本工事は、大型貨物船が安全に航行できるように航路を増深する整備の一部として、浚渫工、土捨工などを施工しました。



自社船「第二飛竜号」

大阪港北港南地区航路(-16m)附帯施設 護岸地盤改良工事【発注者：国土交通省】

国際コンテナ戦略港湾として選定された大阪港では、大阪市内で今後増加する建設土砂や浚渫土砂を長期的・安定的・経済的に処分できる処分場の整備が進められています。

本工事は、処分場の護岸下部にサンドコンパクションパイル(SCP)とサンドドレーン(SD)の地盤改良を実施しました。

陸上土木



三遠南信玉川橋左岸下部工事

【発注者：国土交通省】

三遠南信道は、長野県飯田市から静岡県浜松市に至る延長約100kmの高規格幹線道路であり、これまで25.9kmが開通し、地域の開発・発展を支える重要な道路となっています。

本工事は、一般国道三遠南信自動車道路のうち、第3工区の飯田市上久堅において、橋脚下部工を施工しました。



渋谷区恵比寿南二丁目、恵比寿西一丁目付近 再構築工事【発注者：東京都】

地球温暖化に伴う気候変動などにより、ゲリラ豪雨が増加していますが、現況の排水施設では雨水処理ができず都内には浸水の可能性のある地域が数多く点在しているのが現状です。

本工事は、渋谷区恵比寿地区の浸水対策を目的として内径2mの管渠を1,300m、泥土圧式シールド工法にて布設しました。

建築



HILLTOP横浜山手レジデンス新築工事

【発注者：双日新都市開発株式会社、三菱地所レジデンス株式会社】

横浜市中区の根岸森林公園が隣接した閑静な住宅街の中に、139戸の分譲マンションを建設するプロジェクトでした。

敷地は東西約110m、南北約60mで高低差10mの傾斜地で、約3万m³の掘削を伴う工事であったため、基礎構築までに約8ヶ月の長い期間を要しました。



仰星学園校舎増築工事

【発注者：学校法人仰星学園】

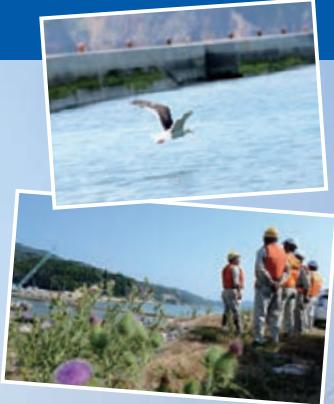
仰星学園高等学校は、福岡県内でも数少ない、思春期の問題を抱える学生のケアやサポートに特化した教育を行う学校であり、県内外から広域に渡り不登校の学生を受け入れています。

本工事は、北九州市八幡西区の閑静な住宅街の中に、創立10周年記念事業の一環として4階建の新校舎を建設しました。

牡鹿半島 寄磯漁港

これまで東日本大震災からの復旧・復興工事を東北各地で行っています。

寄磯漁港では、防波堤などの漁港施設の災害復旧工事や新設工事を全面的に行なっています。



寄磯漁港の近況

寄磯漁港は宮城県牡鹿半島の鮫ノ浦湾に面した漁港で、ホヤやホタテの養殖が盛んです。宮城県は真ボヤの養殖で全国一の水揚げがあり、金華山に近い漁場は「金華ホヤ、金華ホタテ」としてその名が知られており、寄磯浜も主な漁場のひとつです。また、第二種漁港として指定されており、漁船漁業が盛んに行われています。

2011年の東日本大震災によって港や漁業施設は壊滅的な打撃を受け、約100世帯あった住宅も3割が津波で流されてしまいました。しかし、漁業再開への想いは強く、漁港が復旧されるまでの間は他港から出港するなど、震災後すぐに漁船漁業を再開しました。また、2014年からはホヤの出荷を再開しています。

工事概要

●工期：2012年9月～(最終2017年度完成の見込み)

●概要：災害復旧

- ・東A防波堤・物揚場・岸壁・船揚場・漁業道路ほか
新設(機能強化)

- ・東A防波堤延伸(約120m) ・西防波堤新設(約200m)

●進捗状況：

災害復旧については、東A防波堤を含め漁港施設の復旧がほぼ完了しました。

新設については、東A防波堤の延伸が完了し、現在、西防波堤を新設しており、2017年度に全ての施設の整備が完了する見込みです。

●製作ヤード：

ケーソン*製作、ブロック製作、コンクリート塊の破碎・選別の工種は、早急に漁を再開したいとの要望から、当初計画された寄磯漁港内ではなく、約40km離れた石巻市内4箇所で行うことになりました。

*防波堤の本体構造物となるコンクリート製の大型の箱



ブロック製作ヤード



寄磯漁港の震災直後と現在



震災直後(2011年6月)



現在(2015年4月)

施工状況

防波堤新設

ケーソンはFD(フローティングドック)で一度に複数函製作し、FDを石巻から寄磯漁港の沖合まで回航した後、1函ずつ浮上させて据付けることで、防波堤築造を計画より短縮しました。



東A防波堤ケーソン据付

現在の状況



寄磯作業所 渡辺 所長

工事は順調に進んでおり、2015年8月時点では、西防波堤の新設のほか、海中に残っている被災構造物の取壊しなどを行なっています。

港内には施工で残った生コンクリートで製作したアンカーブロックが多数設置されています。漁業関係者の要望に応え、陸揚げ船舶の固定や港内船舶の仮係留設備として、建設廃棄物のリサイクルを兼ねて当社が提供したものです。



寄磯浜の復興 －漁業協同組合を訪問しました－

2015年8月に寄磯浜を訪問しました。生活基盤や漁業の復興が進むにつれて浜に活気が戻ってきてている様子を感じられました。

当日は漁の解禁が間近となったサンマ船の出港式が行われ、大勢の人が見送る中、オホーツク海に向かって出港してきました。



サンマ船『第八栄漁丸』の出港式



ホタテの水揚げ

金華ほや・帆立 復興感謝祭



宮城県復興応援ブログ「ココロプレス」より
<http://kokoropress.blogspot.jp/>

2014年6月に寄磯浜で復興感謝祭が開催されました。震災後はじめてホヤが出荷されたことに對し、これまでの支援への感謝と、寄磯浜のPRを兼ねて開いた催しでした。写真の横断幕は当社が寄贈させていただいたものです。

関係者インタビュー



震災前と比べ水揚げはどの程度戻りましたか。

遠藤 80%程度まで戻っています。これも若築建設さんに早く復旧工事を進めてもらったおかげです。



宮城県漁業協同組合
指導総務本部 指導部
部長 **早坂 裕**さん(寄磯出身)

ありがとうございます。工事を進めるにあたり、石巻市内の広い場所でブロック製作を行うなど、極力漁の妨げにならないように施工を進めてきたことが早期復興にも繋がったと思っています。

サンマ船の出港式を見させていただきましたが、若い人が多い印象がありますね。

早坂 この浜はほかより比較的若い後継者が多いです。震災復旧は震災前と同じように復旧するのが基本ですが、運営委員会が集まって話し合い、これから寄磯浜を受け継いでいく若い世代の将来のことを第一に考え、港を広げ、機能強化する計画にしてもらいました。

若築建設さんは、ケーソンを石巻から1函ずつ曳航せずに、何函かまとめて曳航てきて据え付けていました。あれで進捗が半年以上は短縮されたのではないかと感心しています。

ケーソン据え付けが一気に進み、金曜日と月曜日で港の風景ががらりと変わったこともあります。

遠藤 西防波堤の完成はいつ頃ですか。

今年度末の予定です。もうしばらくご迷惑をお掛けすると思いますが、ご協力よろしくお願ひします。

早坂 西防波堤が完成すれば、波もだいぶ入ってこなくなります。もう少しで完成ですので、こちらこそよろしくお願いします。



宮城県漁業協同組合
寄磯前網支所運営委員会
委員 **遠藤 仁**さん

主な震災復興工事

東日本大震災は東北各地に甚大な被害をもたらしました。当社は、震災直後から緊急物資の輸送や八戸港の啓開作業などに尽力してきました。そして被災された方々が一日も早い



1 八戸港

大津波により被災した港の啓開作業および倒壊した防波堤のケーソン撤去、ケーソン49函の据付などを施工しました。

- 八戸港八太郎地区防波堤(北)(災害復旧)ケーソン撤去外工事(その2)
- 八戸港八太郎地区防波堤(北)(災害復旧)ケーソン撤去外工事(その3)
- 八戸港八太郎地区防波堤(北)(災害復旧)ケーソン撤去外工事(その4)
- 八戸港八太郎地区防波堤(北)(災害復旧)上部外工事



2 久慈港

大津波により倒壊した防波堤のケーソン撤去およびケーソン9函の据付、上部工などを施工しました。

- 久慈港港口地区防波堤(北堤)(災害復旧)築造工事(その2)



3 宮古地区

宮古市にある小港漁港の全面的な復旧工事を施工中です。

- 小港漁港災害復旧工事



4 釜石港

大津波により倒壊した防波堤のケーソン撤去およびケーソン9函の製作などを施工しました。

- 釜石港港口地区湾口防波堤(災害復旧)ケーソン撤去工事(その2)
- 釜石港港口地区湾口防波堤(災害復旧)本体工事
- 釜石港港口地区湾口防波堤(災害復旧)本体外工事



5 大船渡港

大津波により倒壊した防波堤のケーソン撤去および逆T型ブロックの据付などを施工中です。

- 大船渡港港口地区防波堤(災害復旧)開口部築造工事

復旧・復興を望まれるなか、東北各地の港湾や漁港をはじめとした復旧・復興工事を継続して行なっています。また、震災によるガレキ処理に参画するほか、今後懸念される津波に備えた防潮堤の建設や放射性物質の除染作業など、震災からの復興に幅広く取り組んでいます。



6 気仙沼地区

大津波により被災した漁港の復旧工事を施工しました。また、現在は防潮堤および離岸堤を施工中です。

- 気仙沼漁港-6m桟橋災害復旧工事
- 中沢地先海岸災害復旧工事
- 大谷地区海岸災害復旧工事
- 片浜地区海岸災害復旧工事



7 石巻地区

港湾施設や漁港の災害復旧工事、防潮堤工事など多くの工事を手掛けています。

- 石巻港雲雀野地区防波堤(南)築造工事
- 石巻漁港-7.0m桟橋(A工区)外災害復旧工事
- 石巻漁港-6.0m岸壁外災害復旧(その2)工事
- 東浜防潮堤災害復旧(その1)工事
- 西浜防潮堤災害復旧(その2)工事
- 清水田地区海岸災害復旧工事
- 紙分漁港ほか海岸保全施設災害復旧工事
- 寄磯漁港東A防波堤災害復旧工事
- 桃ノ浦漁港西防波堤外災害復旧工事
- 前網漁港防波堤ほか災害復旧工事



8 仙台塩釜地区

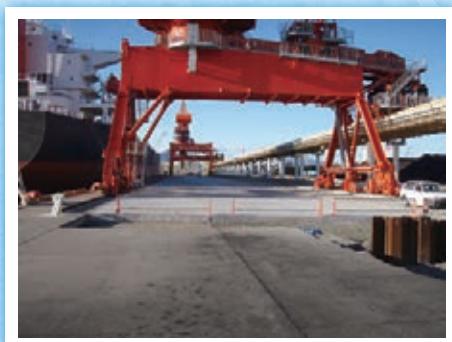
海岸堤防の復旧工事を施工しました。また、現在は漁港の岸壁復旧工事および海岸線の背後地を防護する胸壁復旧工事を施工中です。

- 塩釜漁港新浜町三丁目岸壁(-6.0m)外災害復旧工事
- 一本松(B)胸壁外災害復旧工事
- 仙台湾南部海岸二の倉工区第2復旧工事
- 仙台湾南部海岸二の倉工区第3復旧工事
- 仙台湾南部海岸二の倉工区第5復旧工事

9 相馬港

大津波により倒壊した防波堤のケーソン撤去およびケーソン22函の製作、ケーソン39函の据付などを施工しました。また、現在も施工を継続中です。

- 相馬港本港地区防波堤(沖)(災害復旧)本体工事(その3)
- 相馬港本港地区防波堤(沖)(災害復旧)築造工事 [2012年度]
- 相馬港3号ふ頭地区岸壁(-12m)外築造工事
- 相馬港本港地区防波堤(沖)(災害復旧)築造工事(その3) [2012年度]
- 相馬港本港地区防波堤(沖)(災害復旧)築造工事 [2013年度]
- 相馬港本港地区防波堤(沖)(災害復旧)本体工事
- 相馬港本港地区防波堤(沖)(災害復旧)築造工事(その3) [2015年度]



10 郡山市

東京電力福島原子力発電所の事故による放射性物質を除去する業務を行ないました。

- 一般住宅等除染業務委託(4-4工区)
- 一般住宅等除染業務委託(5-7工区)
- 一般住宅等除染業務委託(6-1工区)

11 小名浜港

大津波により被災した港の岸壁復旧工事を施工しました。

- 小名浜港藤原ふ頭地区岸壁(-10m)外(災害復旧)工事
- 小名浜港5・6号ふ頭地区岸壁(-14m) (災害復旧)工事

多点同時注入工法

(変位抑制型の薬液浸透注入工法)

工法の概要

「多点同時注入工法[®]」は、既設構造物の直下や近傍の地盤改良に適用可能な変位抑制型の薬液浸透注入工法です。

本工法は、従来の薬液注入工法と比べて1箇所あたりの吐出量(注入速度)が少ないため理想的な浸透注入が実現でき、注入負荷が極めて小さいことから、地盤や周辺構造物の変位を抑制することができます。多数の注入箇所(32箇所/ユニット)を同時に施工することで、工期短縮と経済性を向上させた画期的な薬液注入工法です。

改良対象の地盤は砂質土や砂礫土であり、港湾・海岸・空港等における各種構造物基礎地盤の液状化対策、岸壁・護岸背面砂地盤の吸い出し防止対策、土圧軽減対策、長期的な止水対策、地盤強化・支持力増強などに、本工法を適用することが可能です。

工法の特徴

01

- 標準的な吐出量は、1.0ℓ/分～6.0ℓ/分の低吐出であるため、注入圧力が小さく理想的な浸透注入を実現します。

02

- 1ユニットで32箇所を同時に注入するマルチ多連ポンプを採用し、低吐出でありながら施工能力が従来工法よりも高く、経済性に優れた薬液浸透注入工法です。

03

- 施工機械(削孔機)は小型であり、各種注入機材はユニット化されているため、狭隘な施工条件に対応しています。

04

- 注入管は内径6mmの細いフレキシブル管(結束注入細管[®])を採用し、注入管の長さを任意に調整可能であるため、適切な位置に注入吐出口を配置できます。

05

- 各注入箇所の注入圧力・吐出量を監視し、そのデータをリアルタイムに表示・記録・制御する一括集中管理システム(マルチ多連システム[®])を採用することにより、緻密な注入施工管理が行えます。

06

- 自動追尾式トータルステーションなどの変位計測装置と連動して、吐出量をリアルタイムで制御するDCI(Displacement Cntrol Injection)システム(NETIS:KT-100019-A)を導入することで、近接する重要構造物や地盤の変位量を許容値内に抑えながら施工できます。

07

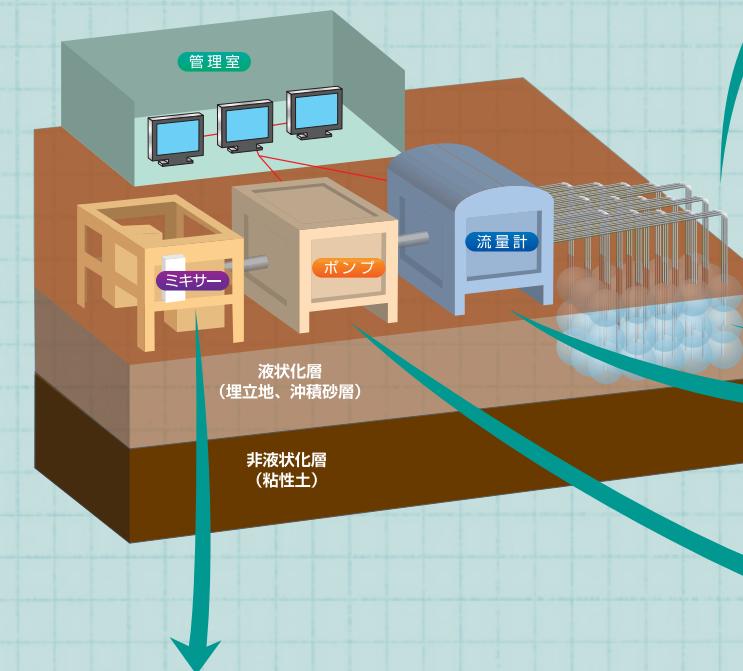
- 液状化対策や吸い出し防止対策などでは、耐久性に関する理論と現場実証がなされた活性シリカ系の専用注入材(恒久グラウト:パーマロック[®]ASFシリーズ)を使用します。

最先端の要素技術を集積した注入工法



一括集中管理システム(マルチ多連システム[®])

多数の注入箇所に同時に注入することから、一括集中管理システムで管理します。注入圧力の変動に応じて吐出量を自動制御するため、注入圧力が管理値を超過することを防止し、良好な浸透注入を実現します。



全自动ミキサー

恒久グラウト専用の全自动ミキサー(3液2槽混合型)を採用。作液能力が7.2m³/hと大容量で計量誤差が1%以下と小さいため、高品質の作液が可能です。

技術の普及・発展に向けて

| 本社 技術設計部 水野 健太

近年、南海トラフ地震や首都直下地震など逼迫する巨大地震に備え、社会インフラやエネルギー関連施設の耐震補強に関する要請が高まっており、お客様からの引き合いも増加しています。本工法は供用中の施設を止めずに、基礎地盤の液状化防止や耐震補強を可能とする画期的な薬液注入工法であり、今後もお客様のニーズにあった施工方法の提案を心がけていきたいと思います。





結束注入細管[®]

複数の注入管とノズルチップを束ねて注入孔にセットします。軽量で扱いやすく、注入のたびに管を引き上げる必要がないなど、施工性に優れています。



注入孔口(地上)

注入孔口に突き出た注入管と注入ポンプを連結し、同じ注入孔で複数箇所を同時に注入できます。



注入吐出口

(気中での吐出状況)

注入管の先端部(ノズルチップ)には薬液の逆流を防止する逆止弁を備え、薬液が地盤中に均質に拡散するようネット構造になっています。



注入ポンプ(32連)

ユニット化された32連のマルチ多連ポンプを採用。個々のポンプはダイヤフラム式の小型低騒音タイプで、インバータ制御により、0.1～10.0ℓ/分の範囲で0.1ℓ/分刻みに吐出量の制御が可能です。



流量圧力検出ユニット

注入圧力、吐出量(注入速度)、積算流量を検出するユニット。通信ケーブルを介して注入管理装置に検出値が送信されます。

環境への影響

生分解性注入管(バイオチューブ[®])

注入管を残置したくない場合や注入後に地盤を掘削する必要がある場合などでは、土中で生分解する性質を持つ特殊注入管を採用することができます。



●有害物質を含まない注入材

注入材の構成成分は全て無機物であり、重金属や劇物などの有害な物質を含みません。

●周辺水域等への環境影響

注入材は、酸性反応材を用いていますが少量であるため、排水基準(海域以外:5.8≤pH≤8.6)を満たしており、周辺水域に環境負荷を与えません。また、固化改良土は、ほとんど中性を示すため、環境性に優れています。

●注入材の生物に対する安全性

注入材を使用した淡水生物や海水生物に対する毒性試験においても、安全であることが確認されています。

施工事例



既設岸壁背後地盤の土圧軽減・液状化対策(八代港)



東日本大震災により被災した護岸直下地盤の補強

「多点同時注入工法[®]」は、一般財団法人 沿岸技術研究センターが実施する港湾関連民間技術の確認審査・評価事業による技術評価を取得しています。

認定番号：第14002号

認定日：2014年11月26日

依頼者：若築建設(株)、りんかい日産建設(株)、強化土エンジニアリング(株)

「多点同時注入工法[®]」は、強化土エンジニアリング(株)および日本基礎技術(株)による工業所有権(特許ならびに商標)が成立済みです。

技術研究所を再整備

当社は、2015年7月1日、千葉県袖ヶ浦市の社有地内に技術研究所を再整備しました。

研究棟の規模は、長さ55m×奥行15m×高さ12mの総2階建(敷地90m×60m)であり、1階に土質、コンクリート、施工制御技術の各研究室を整備し、2階には事務室、会議室、応接室、倉庫等を設置しています。1階には大きな実験スペースを確保し、屋内環境の広いスペースで実験を行うことができ、また、特徴的な実験施設として「大型実験水槽」も整備しています。縦10m×横10m×深さ5mあり、水中環境の中に小型重機を持ち込んでの実物大の実験が可能となります。

技術研究所における研究分野につきましては「土質・地盤改良」「コンクリート・構造」「波浪・水理」および「施工・制御技術」の4分野とし、各々研究室を設置します。具体的な研究内容は、以下の通りです。

- ①環境対応の技術として、風力発電、太陽光発電、及び小水力発電等の再生可能エネルギー関連の技術開発。とりわけ洋上風力発電に関する、波浪、洗掘問題等の研究。
- ②国土強靭化に対応した、「粘り強い」港湾・海岸構造物の研究開発。
- ③港湾法改正に伴って必要になる、湾岸施設の鋼材、コンクリート部材に対する「海洋リニューアル」に関する技術開発。
- ④地盤改良の品質向上のための研究、および関連設備の開発。
- ⑤原発事故対応として、放射性物質を含む底質土の浚渫、及び減容化の一連の技術開発。
- ⑥軟弱地盤上に建設する工場や物流施設に対する基礎構造の技術開発。
- ⑦既存建築物のリニューアルに関する施工関連技術の開発。

再整備された技術研究所は、「さらなる研究・開発の推進」「民間営業提案力の充実」および「現場技術課題解決能力の強化」等を目的として、お客様の抱えている問題や社内のあるべき技術的課題に迅速に対応する「技術支援センターとしての機能構築」を目指して研究活動を行ってまいります。



外観



作業スペース



大型水槽



建物全景

貞山運河 桜植樹会に参加

貞山運河は、旧北上川河口から松島湾を経由して阿武隈川河口まで、宮城県の仙台湾沿いの海岸線に並行して続く運河です。東日本大震災による大津波は、宮城県の沿岸域に広く、大きな被害をもたらし、貞山運河も例外ではなく、堤防や護岸が大きく被災し、津波の引き波で集積された瓦礫で埋没してしまいました。

宮城県は貞山運河の復興に向けて、2013年5月に「貞山運河再生・復興ビジョン」を策定し、その主要な施策の一つとして、沿岸地域の美しい景観を再生するため桜の植樹に官民連携して取り組んでいます。

当社は、その取り組みに賛同し、桜植樹のための寄付を行ない、2015年3月21日に開催されました桜植樹会および植樹ボランティアに参加いたしました。植樹会には、村井嘉浩・宮城県知事や菊地健次郎・多賀城市長などをはじめ、多くの方が参加されました。



桜植樹会



桜植樹ボランティア



桜植樹記念写真

わかちく史料館が企画展を開催

わかちく史料館では、2015年2月に企画展「北九州の風景～鉄河童と旧五市の祭り～」を開催しました。

毎年、北九州市の各区において旧五市の時代から続くお祭りが盛大に執り行われており、今年度の企画展は鉄工芸家・中原弘氏のご協力により、若松の五平太ばやしをはじめ、戸畠祇園大山笠、小倉祇園太鼓、八幡の黒崎祇園山笠、門司みなと祭を鉄河童にて再現しました。

中原弘氏は、長年、若松区の造船所で船舶修理に携わり、

造船所の休憩時間に廃材の鉄板を利用して溶接などの加工技術を生かし、平成3年ごろから鉄河童を作り始めました。廃材の鉄板を使い、若松区に古くから伝説のあるカッパを作り続けて20年余りになります。

企画展の開催中には、市内の介護施設や市民センター等の方など1,000名以上の方がご来館ください、お祭りの思い出話をしながら展示物に興味を示していただきました。



展示の模様



若松五平太ばやし



コーポレート・ガバナンス



コーポレート・ガバナンス体制

基本的な考え方

企業統治の強化が企業価値を高める重要な経営課題のひとつであると認識し、経営責任と執行責任を明確にした経営体制を確立するとともに、内部監査体制を強化し、経営の透明性を高め、企業倫理の確立をはかっています。

取締役会

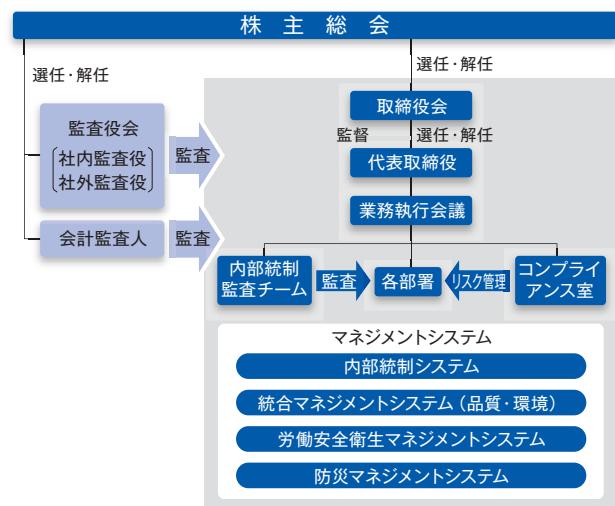
取締役会は原則月1回開催し、法令および定款に定められた事項ならびに経営に関する重要事項について審議・決定を行っています。また、必要に応じて臨時に取締役会を開催し、迅速かつ適切な意思決定につとめています。

執行役員制度

経営の透明性と健全性を高め、経営環境の変化に即応するスピーディな業務執行ができるよう、執行役員制度を導入しており、経営責任と執行責任の明確化をはかっています。

監査役会

当社は、監査役制度を採用しており、3名の監査役の内、半数以上の2名を社外監査役としています。監査役は、取締役会およびその他の重要な会議へ出席し、重要な決裁書類等の閲覧等を通じて、取締役の職務執行を監査しています。さらに、内部監査を定期的に実施することにより、業務執行の適法性・効率性について監査しています。



※マネジメントシステム

内部統制、品質、環境、安全、防災など主要な業務については、プロセスを明確にした全社一体型のマネジメントシステムとして整備・運用しています。PDCAサイクルにより、機能の強化を進め、業務の効率化をはかっています。

内部統制

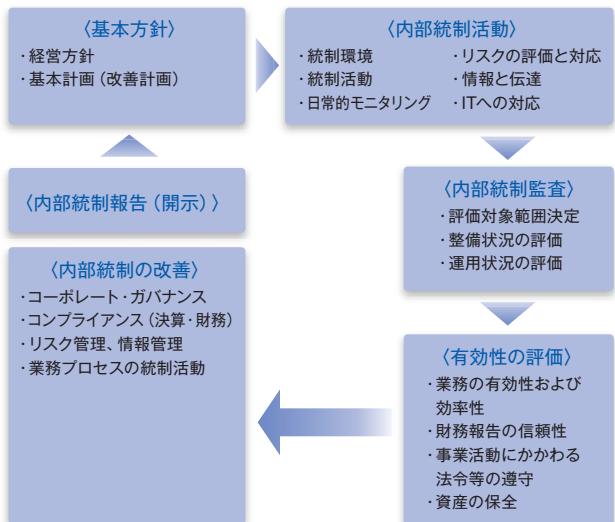
内部統制システム

業務の執行が適正かつ健全に行われるため、実効性のある内部統制システムの構築と法令遵守体制の確立につとめています。

内部統制監査

財務報告の信頼性を確保し、会社の健全性を維持するため、総合システム部を中心とした内部統制監査チームによる内部統制監査を実施することで、内部統制の有効性を継続的に監視し、評価・改善をはかっています。また、各種研修会への参加による内部監査人の監査レベルの維持・向上につとめています。

なお、内部統制監査チームは、監査役に対して定期的に内部統制監査の実施状況を報告し、監査役は必要に応じて随时、報告を要請できる体制となっています。



コンプライアンス体制

管理体制

法令遵守の徹底と企業倫理の確立をはかるために、コンプライアンス室を中心とした管理体制を整備しています。

また、業務執行や個人の行動に関する遵守すべき基本的事項を、企業行動規範を基により具体的に示した企業倫理規程、および行動指針・マニュアルなどを定め、管理体制を強化しています。

内部通報制度

法令などに違反する行為を発見した場合や発生するおそれがあると判断した場合の通報窓口（コンプライアンス室）を設置しており、重要な情報は取締役会および監査役に伝えられます。なお、内部通報規程により、通報者は保護されます。

企業行動規範

当社は創業以来、その時代の求める社会のニーズに応え、社会の発展と国民生活の向上に寄与すべく企業活動を行なってきました。これからも私達は、一人ひとりが高い倫理観を携え、

公正な企業活動を通じて、建設業者としての社会的使命・役割を果たして行きます。社会に受け入れられ、信頼される会社であるために自信と誇りをもって活動できるように、私達の守るべき「企業行動規範」を以下のように改定しました。

I. 企業行動規範

第1 建設業者としての社会的使命・役割の遂行

建設業者としての社会的使命・役割を果たすため、健全で成長力のある企業体質を保持し、良質の建設サービスを安全かつ経済的に顧客に提供する。また、大規模自然災害発生時には組織をあげて被災地域、住民を支援し、復旧・復興に取り組む。

1. 健全な企業体質の確立
2. 顧客の満足と信頼の獲得
3. 品質の確保と建設技術の向上
4. 適正な協力体制の構築
5. 公衆災害防止の徹底
6. 自然災害への対応

第2 公正で誠実な企業活動の実践

法令及びその精神を遵守するとともに、社会的良識に反する企業行動は一切行なわない。公正な取引、適正な会計処理、クリーンな政治・行政との関わりを保持する。

1. 公正な営業活動の実施
2. 適正な生産体制の構築
3. 反社会的勢力の排除
4. 知的財産権等の保護
5. 適正な財務処理等の実行
6. 政治・行政との適正な関係の保持

1. 社会との広範なコミュニケーションの実施
2. 社会貢献活動の積極的な展開
3. 環境保全等への取り組み
4. 国際活動における各国・地域への貢献

第3 人を大切にする企業の実現

「人」を大切にする企業であるため、人権の尊重はもとより労働環境の改善、人材の確保・育成に努める。

1. 魅力ある労働環境の創出
2. 安全衛生対策の強化・充実
3. 差別や不当な取り扱いの禁止
4. 多様な個性や能力を尊重した人事待遇、人材育成の推進

第4 社会との共生

よりよい環境を創造するため、環境保全、省エネルギー等社会の要請に応えるとともに、良き企業市民として社会貢献活動に努める。

II. 本規範の実効性確保

経営トップは率先して必要な体制整備等を推進し、規範に基づいた企業行動の実践について、グループ全体を統率する。また、協力会社においても、本規範の趣旨に基づいた取り組みを促す。

1. トップによるコミットメント
2. 實践のため体制整備
3. 具体的な取り組みに関する情報開示
4. 定期的なチェックと評価
5. 速やかな説明責任と対応措置
6. 厳正な処分

リスク管理

事故・災害・紛争や不法行為、テロやその他不測の事態など、企業経営におけるリスクはますます複雑化、多様化しており、リスク管理の重要性は高まっています。当社では、様々な緊急事態に迅速かつ的確に対応できるよう、対応手順をリスク管理規程で定めています。全社的な取り組みが必要と判断した場合に

は、代表取締役を委員長とする危機管理委員会により、迅速に対応できる体制をとっています。

大規模自然災害に対しては、防災規程に基づき、対策の強化・推進をはかっています。

情報セキュリティ

ITによる情報化が進歩している現在、企業が保有する機密情報の漏洩は、社会的信頼の低下、ひいては企業利益の損失につながり、経営に大きなダメージを与えるリスクをかかえています。当社では、社員が業務上知り得た機密情報の漏洩などを未然に防止するため、情報管理規程を定め、情報の保護につとめています。また、お客様をはじめとするすべての個人情報を適切に保護する

ためプライバシーポリシーを制定し、具体的な管理手順を個人情報保護規程で明確にしています。

電子情報のセキュリティについては情報セキュリティポリシーを策定し、周知徹底をはかっています。



マネジメントシステム



品質と環境については、全社一体型の統合マネジメントシステムを適用しています。高い品質の確保とお客様の満足度の向上をめざすとともに、積極的な環境保全活動を行っています。

品質環境方針

若築建設は、国内外における社会基盤施設の建設活動を通して、社会の発展に貢献します。また、経営資源を効果的に活用して、人材育成や技術力の向上に積極的に取り組むとともに、業務改善を常に心がけ、社会からの信頼に応えてまいります。

法令の順守 法令、その他の社会的規範等の順守を徹底し、高い倫理観のもとに良識ある企業活動を実践します

お客様の信頼確保 お客様のニーズを先取りし、お客様のご要望に応え、満足し信頼していただける高品質の建設サービスを提供します

環境の保全 汚染の予防や生物多様性の保全等に努め、環境保全技術の開発、省エネルギー対策、建設副産物対策を積極的に推進します

社会への貢献 社会とのコミュニケーションを大切にし、防災活動や地域交流などを積極的に推進し、豊かで住み良い社会づくりに貢献します

マネジメントシステムの運用

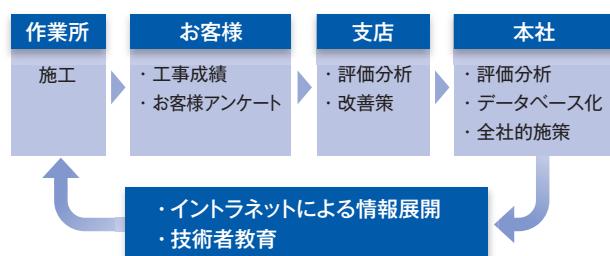
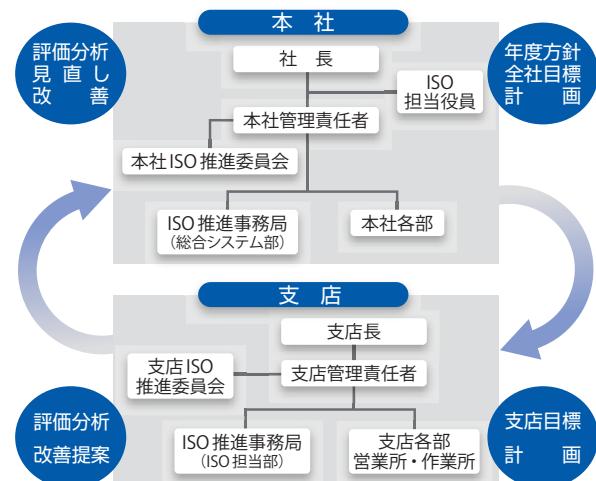
本社と支店にマネジメントシステムの管理責任者を配置しています。本社管理責任者は、本社内のマネジメントシステムの運用管理を担うとともに、支店も含めた全体のマネジメントシステムの管理を行っています。支店管理責任者は、支店内でのマネジメントシステムの運用管理を行い、運用状況、評価分析結果、改善提案などを本社管理責任者に報告しています。

毎年一度、本社および各支店でISO推進委員会を開催し、すべての運用データを集めて評価分析し、総合的な見直しを行っています。そしてそれらの結果は、マネジメントレビューのための基礎データとなり、システムの向上につなげています。

お客様の満足度向上をめざして

お客様のニーズを把握し、満足していただける建設サービスを提供していくために、受注から引渡しまでの各段階において、本社、支店の各部門がサポートする体制を整えています。

特に施工計画段階においては、品質確保や環境保全のための予防処置の検討に重点を置いています。また、お客様の評価や貴重なご意見をしっかりと受け止め、その後の対応やお客様の満足度向上に活かすために、それらの情報をインターネットや教育を通して、全社に展開しています。



技術力の向上

品質を確保するためには、品質を支える技術者の能力を伸ばすことが必要です。当社では、システム化されたOJT教育を実施しており、毎年個々の技術者に対して上司が面談して必要な目標・行動計画を設定し、実務上での支援・指導、そして達成状況の評価を行い、レベルアップをはかっています。

また、若手技術者を対象に、施工管理に関する技術研修などを開催し、技術力の向上につなげています。



土木技術年報発表会

「土木技術年報」は、技術力向上への様々な取り組みを目に見える形で残すことを目的に、1992年から毎年発刊しています。昨年度の年報は、技術設計部からの技術紹介と研究報告(4編)、支店などからの施工報告(6編)の構成でした。施工報告としては、「供用中空港滑走路部の液状化対策工事」、「都心部における泥土式シールド工法」および「後ラーメン工法を用いた黎明みなど大橋」など



発表会

の論文投稿がありました。また、当社が設計施工した建築物件の報告として「精油所内の外部爆発荷重を考慮した設計」の投稿もありました。

2014年12月4日には東京本社で土木技術年報発表会が開催され、多数の役職員が聴講のために参加し、論文の発表と質疑応答が行われました。



発表会の講評

外部審査・内部監査

品質マネジメントシステム(QMS)および環境マネジメントシステム(EMS)の審査登録機関による2014年度の審査では、規格要求事項に対する改善点の指摘はありませんでした。

社内の内部監査においても改善点の指摘は少ないものの、システム改善に向けた提案や要望事項が数多く出されました。

指摘を受けた改善点については原因を究明して作業を見直し、改善提案や要望事項とあわせて、システムへの導入、水平展開につとめています。



外部審査(土木現場)



外部審査(建築現場)

外部審査			
審査期間	2014年6月10日～6月13日		
審査対象	本社、東北支店、東京支店 横浜支店、北陸支店、名古屋支店		
審査結果	QMS	EMS	
	改善指摘A(重大な不適合)	0件	0件
	改善指摘B(軽微な不適合)	0件	0件
	観察事項(要検討事項)	1件	1件
	充実点(優れた事項)	3件	1件
審査登録機関	株式会社マネジメントシステム評価センター		

内部監査			
監査期間	2014年10月1日～2015年1月30日		
監査対象	QMS	EMS	
監査結果	本社、支店(サンプリング)	81部署	86部署
	重大な改善点(重大な不適合)	0件	0件
	改善点(軽微な不適合・観察事項)	4件	2件
	提案・要望事項	31件	2件
	推奨事項	19件	14件
優良事項	3件	1件	



環境データ

環境目標

2014年度の環境目標の達成状況は以下のとおりです。

環境目的	部門	環境目標			達成状況
地球温暖化対策を推進する	土木	CO ₂ 排出量 ^{*1}	作業船あり ^{*2}	129.0 t-CO ₂ /億円以下	79.2 t-CO ₂ /億円
			作業船なし ^{*2}	65.0 t-CO ₂ /億円以下	61.6 t-CO ₂ /億円
建設副産物対策を推進する	建築	CO ₂ 排出量	13.0 t-CO ₂ /億円以下		8.0 t-CO ₂ /億円
	土木	建設汚泥再資源化率 ^{*3}	90%以上		99%
		建設発生木材資源化率 ^{*3}	90%以上		92%
		建設発生土利用率 ^{*4}	88%以上		85%
	建築	建設汚泥再資源化率	90%以上		100%
		建設発生木材資源化率	90%以上		100%
		建設発生土利用率	90%以上		90%
環境配慮設計を推進する	土木	1案件あたりの環境配慮事項	3項目以上	3項目以上採用	
	建築	1案件あたりの環境配慮事項	5項目以上	5項目以上採用	
環境配慮型技術開発を推進する	環境配慮技術の開発に向けて2件以上取り組む			4件実施	

土木部門の建設発生土利用率については目標を達成できませんでした。海砂を多量に必要とした地盤改良工事の影響です。

※1) CO₂排出量 = CO₂排出量(t) / 出来高(億円)

※2) 作業船あり(なし) : 工事施工において作業船を使用する(しない)工事

※3) 建設汚泥(発生木材)再資源化率 : (他工事で利用した量+再資源化施設で再資源化された量) / 場外搬出量

※4) 建設発生土利用率 : (工事内で発生し利用した量+他工事から搬入した発生土量) / 工事で使用した土量

環境会計

環境会計は、「建設業における環境会計ガイドライン2002年度版」(日建連)および「環境会計ガイドライン2005年版」(環境省)に準拠して算定しました。

環境保全活動と経営との関連性や有効性を明確にし、機能の強化をめざしています。

■対象範囲: 国内事業所のみとし、関係会社は含みません。

■対象期間: 2014年4月1日~2015年3月31日

■集計方法: 環境保全コストは、19工事をサンプリングし、完工工事高により全社換算しました。抽出した工事は、完工工事高全体の22%に相当します。なお、サンプリングの対象は、単独および当社が幹事会社である共同企業体工事です。

環境保全コスト

分類	内訳		費用(百万円)				
			2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
事業エリア内コスト	公害防止コスト	水質汚濁防止・騒音・振動防止	1,326	733	837	1,742	1,167
	資源循環コスト	産業廃棄物・一般廃棄物の処理・処分	497	451	631	872	745
		小計	1,823	1,184	1,468	2,614	1,912
上下流コスト	環境配慮設計		4	4	4	4	4
管理活動コスト	監視・測定、環境教育や事業所周辺の緑化・美化などの環境改善対策		32	29	75	30	41
研究開発コスト	環境保全に関する研究開発		20	43	33	34	17
社会活動コスト	工事のイメージアップや地域の緑化・美化などの環境改善対策		33	6	28	22	32
環境損傷対応コスト	環境リスクの対応費や環境損傷の保険料など		11	10	10	11	6
計			1,923	1,276	1,618	2,715	2,012

環境保全効果

分類	項目	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
事業エリア内効果	建設廃棄物リサイクル量	50,659t	126,615t	18,495t	99,359t	70,188t
	建設発生土リサイクル量	1,345,698m ³	1,616,251m ³	2,166,647m ³	898,760m ³	805,511m ³
	工事による温室効果ガス排出量	53,058t-CO ₂	26,509t-CO ₂	69,032t-CO ₂	51,156t-CO ₂	40,482t-CO ₂
	オフィスの温室効果ガス排出量	877t-CO ₂	805t-CO ₂	1,123t-CO ₂	1,019t-CO ₂	1,037t-CO ₂
上下流コスト	土砂(再生資源)	303,988m ³	304,265m ³	505,032m ³	296,516m ³	980,237m ³
	高炉B種セメント	2,801t	15,160t	14,098t	5,376t	31,854t
	再生砕石	73,194t	222,007t	99,279t	51,540t	173,399t
	再生アスファルトコンクリート	17,049t	23,892t	3,281t	5,141t	7,903t
	グリーン購入(事務用品など)	11,106千円	13,672千円	16,776千円	19,717千円	21,875千円

マテリアルフロー

主要建設資材	
セメント	32,260 t
生コンクリート	195,878 m ³
アスファルトコンクリート	9,882 t
鉄鋼製品	406,890 t
碎石	443,300 t
土砂	1,117,963 m ³

主要再生資材	
再生アスファルトコンクリート	7,903 t
再生碎石	173,399 t
建設発生土	980,237 m ³

施工での投入エネルギー	
電力	92 万 kwh
軽油	6,570 kℓ
A重油	8,535 kℓ
灯油	16.8 kℓ

オフィスでの投入エネルギー	
電力	148 万 kwh
ガソリン	140 kℓ
灯油	11.9 kℓ

INPUT

事業活動

技術開発 設計 施工 維持

OUTPUT

建設副産物排出量		再資源化量		CO ₂ 排出量	
コンクリート塊	51,883 t	コンクリート塊	51,732 t	工事	40,482 t-CO ₂
アスファルトコンクリート塊	8,865 t	アスファルトコンクリート塊	8,802 t	オフィス	1,037 t-CO ₂
建設発生木材	452 t	建設発生木材	411 t		
指定副産物以外廃棄物	11,910 t	指定副産物以外廃棄物	9,243 t		
建設泥土	39,215 t	建設泥土	39,090 t		
建設発生土	849,621 m ³	建設発生土	805,511 m ³		

※指定副産物
建設リサイクル法で再資源化が義務づけられている、コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊および建設発生木材

建設副産物の再資源化量と再資源化率

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
総排出量	66,816 t	143,407 t	42,016 t	107,565 t	112,325 t
再資源化量	65,600 t	140,820 t	40,947 t	104,896 t	109,278 t
最終処分量	1,216 t	2,587 t	1,069 t	2,669 t	3,047 t
再資源化率	98.2%	98.2%	97.5%	97.5%	97.3%

※ 建設発生土を除く



2014年度の施工量は前年度と同程度でしたが、建設副産物の総排出量は、前年度より約5,000t増加しました。これは、地盤改良工事で発生した多量の排泥などにより、建設泥土が前年度より約33,000t増加したことが大きく影響しています。

しかし、建設泥土のほとんどを再資源化していることもあり、最終処分量は全体で約400tの増加にとどまっています。このため、再資源化率は昨年度と同程度の97.3%と高い水準を維持することができました。

温暖化ガス排出量の削減



海上工事では、起重機船や浚渫船など化石燃料を多く消費する大型作業船を使用することが多く、温暖化ガスの排出量が増大します。また、陸上工事においても、土工事や土砂運搬などでダンプトラックや建設重機から温暖化ガスが排出されます。

このため、工事施工における温暖化ガス排出量削減に関する数値目標を掲げ、様々な取り組みを行っています。

【温暖化ガス削減の取り組み】

- 燃費など環境性能の優れた施工機械の使用
- 省エネルギーに関する啓蒙、省燃費運転の指導
- 施工機械、船舶の適正整備の徹底
- 運搬土量の削減や運搬距離の短縮などムダのない施工計画
- 太陽光発電の導入、高エネルギー効率機器の採用
- 空調温度や照度の省エネルギー設定

環境配慮型作業船「若鷺丸」



若鷺丸による浚渫

若鷺丸は、浚渫グラブバケット下降時の運動エネルギーを電気エネルギーに変換して蓄え、バケット巻き上げ時に利用するハイブリッド駆動システムを備えた環境配慮型作業船です。また、IMO(国際海事機関)の排ガス規制に合致したエンジンを搭載しています。

2014年7月の建造からこれまで浚渫工事を3件施工し、22万m³余を浚渫しています。



若鷺丸のハイブリッドモニター



浚渫機エンジン(IMO認証機)

オートアイドリングストップ機能

オートアイドリングストップ機能が備え付けられた建設機械を使用して燃料を削減し、温暖化ガスの排出量の削減に寄与する活動も実施しています。



オートアイドル機能付ミニバックホウ
登録番号 KK-120076-A

ソーラーハウス

建設工事の仮設事務所に太陽光発電を組み込んだ仮設ハウスを利用することで、再生可能エネルギーの利用増大をはかっています。ハウスには蓄電池が備付けられており、無日曜でも3日間の使用が可能です。



屋根のソーラーパネル



発電メーター

省エネルギーに関する啓蒙、指導

建設機械や作業船の使用燃料削減のための省燃費運転やアイドリングストップの推進、あるいは、居室内での空調温度調整による省エネルギー活動などを、月例工事会議や日々の打ち合せの中で啓蒙、指導しています。



安全協議会

再生可能エネルギー関連工事



小水力発電用タービン

エネルギーの安定供給や地球温暖化対策のひとつとして再生可能エネルギー施設の建設が進められており、当社も、メガソーラー発電、風力発電のほか、小水力発電やバイオマス発電といった再生可能エネルギー施設の建設工事を各地で行っています。

小水力発電所の建設(鹿児島県霧島市)

小水力発電は水車(タービン)を回して発電します。ダムを利用した一般的な水力発電と同じ原理ですが、ダムのような大規模構造物を必要としないため、設置可能な場所が多く、周辺環境へ与える影響も小さい発電方法です。

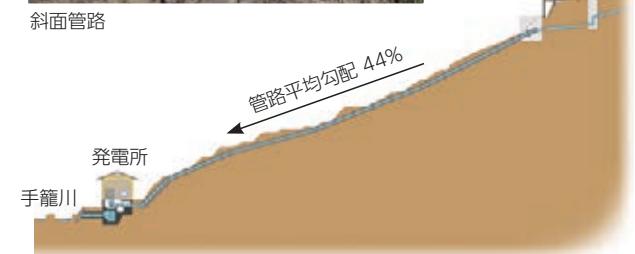
また太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの中でも効率の良い発電方法で、今後、設備の規格化・量産化が進むことで経済性にも優れた発電方法として期待されています。

この工事は、鹿児島県霧島市を流れる手籠川に計画されました。上流の取水堰から延長約1kmの水圧管に取水し、110mの落差を利用して発電します。最大出力は980kwで、年間約520万kwh(一般家庭約1500世帯分)を発電します。



工事概要

- 工 期：2013年7月～2015年1月
- 発注者：九州発電株式会社
- 内 容：取水堰工、管路工、斜面工、発電施設工、工事用道路工



発電所建屋

2015年1月に地元地域の方々が、完成した発電所の見学に訪れました。

EE東北'15(新技術展)

2015年6月に、国土交通省東北地方整備局主催による建設新技術の展示会「EE東北'15」が開催されました。この展示会は、建設新技術の普及と技術開発の促進を目的として毎年開催されています。当社は、環境に配慮した保有技術を2件紹介しました。



●環境配慮型作業船「若鷲丸」

環境対応型エンジン発動機やハイブリッド駆動システムなどを配備するほか、法対応バケットや施工管理システムを駆使して、精度が高く効率の良い施工を行ないます。

●ジオマリーン工法

一体型二重遮水シートによる高い遮水性能と、万一損傷した場合でも健全性を維持するフェイルセーフ(安全装置)を備えた遮水技術で、管理型廃棄物最終処分場に対応しています。



A discussion of woman engineers

開催場所：九州支店

女性技術者が語る、夢と未来

| 職歴と今の仕事内容

宮入：お二人のこれまでの職歴と、現在の仕事内容を教えてください。

末田：入社後に配属されたのは建築部の設計担当で、3年間設計業務に携わっていました。その後積算担当に異動し、現在に至っています。仕事は見積もりの作成が主で、施工物件の競争入札において提出しなければならない見積書や仮設図等の資料を作っています。その他、協力業者に見積もり依頼をして取りまとめ、協議をして問題点の対応を行っています。

佐藤：私は今年入社しました。新入社員集合研修を受けたのち、4月1日に、現在の九州女子大学・九州女子短期大学新棟改築工事の作業所へ配属されました。今は先輩社員の指導のもとでOJTを受けています。

| 一日のスケジュール

宮入：一日のスケジュールをお聞かせください。

末田：業務内容は日によって異なりますが、段取りよく行うために、やらなければならないことを箇条書きにし、TO DOリストを作っています。見積もり依頼を行うときは業者との電話での打ち合わせが多く、その外、資料作成作業等をしています。

宮入：残業はありますか。

末田：物件が重なり、期限が迫ると残業になることもあります。それでも8時から9時には退社できますし、最近は定時で帰れることが多いです。

宮入：佐藤さんは、4月に入社して、赴任地は大学キャンパ

スの建築現場ということですが、一日のスケジュールをお聞かせください。

佐藤：朝7時に現場に行って、天候や週間予報を確認し、その日の工程を確認、清掃を行い、8時に朝礼があります。その後現場に出て、職人の体調や、安全設備を確認し、安全作業のための機器を起動し、職人の熱中症対策を行っています。日によって異なりますが、その後は配筋のチェックを行ったり、内装の写真を撮ったりしています。また事務作業を行うこともあります。上司からは、「指示と確認が仕事であり、段取りが大切だからそれを念頭に現場に出て、デスクワークも大切にするように」と指導されています。今は現場に出て、職人とコミュニケーションをとっている時間が長いですね。



| 女性技術者として働いて

宮入：佐藤さんが職人さん一人一人の名前を覚えていて、呼びかけている姿を見て驚きました。名前を覚えるだけでも大変ですか。

佐藤：こちらが名前を覚えると、一気に距離が近くなり、可愛がってもらえます。お菓子をいただくこともありますよ(笑)。

宮入：現場は女性が少ないと思いますが、そのことで困っていることはありますか。

佐藤：安全帯は重たいですし、体力は必要だと思います。トイレや



更衣室は整備されていて問題はありません。今後一人前の現場監督となっていく過程で困ることも生じてくると思っています。

宮入：末田さんも、取引先の協力業者さんでは女性の方は少ないですか。

末田：少ないですが女性の方もいらっしゃいます。女性だから困ったということはありません。

佐藤：私も覚悟していたほど「女性だから困った」ということはありません。

宮入：入社する前の方が、不安が大きかったのかもしれませんね。

末田：この業界は、時代の流れもあって、女性技術者の受け入れ体制は徐々に整備されてきているように感じます。入社した時は、「えっ、あなたが担当なの?」と驚かれたこともあります。真剣に取り組んでいくうちに理解されて、問題も解消されました。前向きに取り組めば、女性だからということではなく問題になることは少ないよう思います。

佐藤：現場でも女性の職人さんもいらっしゃるのですが、その方たちと、「カレー女子会」を結成して、「女子カレー(小盛り)」をデリバリーして語らうなど、女性が少ないなりに楽しくやっています。



| 技術者を志したきっかけ

宮入：建築技術者を志そうと思ったきっかけは何ですか。またゼネコンの中でも若築建設を目指そうと思ったきっかけをお聞かせください。

末田：中学3年生の時に高等専門学校のオープンキャンパスに参加したのがきっかけです。初めは情報電子工学科に興味があったため、ついでに土木建築工学科も見学しました。そこで学習している内容や、図面、模型を見て、元々ものづくりが好きだったこともあり、「自分の書いた線が実際の建物になる建築の仕事はいいな。」と興味を抱き、土木建築工学科への入学を決めました。5年間学んだ後、環境建設工学専攻に進み、さらに2年間、建築の勉強をしました。

佐藤：私はテレビ番組の「ビフォー・アフター」の見過ぎ(笑)で、建築設計に興味を持ち、高等専門学校に入りました。いろいろ学んでいくうちに、「ずっとデスクワークをやるものもしないな」と思ったのと、実際に建物を作っている施工現場を知りたいと思うようになりました。また、「現場を知らないと設計もできない」という思いもありました。そう考えるうちに自然とゼネコンを目標にしていました。



若築建設に決めたのは、説明会に行き、若手技術者の方との座談会で技術者の方が「この会社に入ってよかった」と仰っていましたが、その言葉が心からそう思っているように感じられたのが大きかったです。そしたら配属先の現場に、その方がいらっしゃったのです。会社選びもその方が配属先にいらっしゃったことも、「縁」なのだと強く感じました。

宮入：設計にも興味があって、現場も経験できるゼネコンに入つて、将来幅が広がる意味でも、若築建設に入社してよかったですね。

末田さんの時は今よりもゼネコンを目指す女性は少なかつたですか。

末田：はい、ゼネコンに行った同級生は少なかったです。私も、ゼネコンは設計と施工を行っているという面が大きな魅力でした。その意味でも、施工を理解した積算、意匠設計ができるようになりたいと思ったのでゼネコンがよかったです。

宮入：私は、事務職ですがもともと理系で、ものづくりの規模の大きさと、長く供用されることに魅力を感じ、ゼネコンだけを50社くらい回りました。初めはスーパーゼネコンが格好いいなと思っていたのですが、若築建設の説明会に参加した時に、採用担当者以外の方もフレンドリーな、他社にはない雰囲気で、自分の「直感」を信じて若築建設に決めました。

| 若築建設に入社して

宮入：若築建設に入社して、入社前と入社してからのギャップはありましたか。

末田：あまりギャップは感じませんでした。むしろ年齢・部署間関係なく触れ合える機会の多い会社だと感じました。社内の行事も多く、マラソン、ビーチバレー、地元の祭りへの参加などがあります。また労働組合のレクリエーション部活動も盛んです。

佐藤：覚悟して入社したので、ギャップは少なかったと思います。特に九州支店はお祭りが好きですし、若手の集まりや、



私のような新入社員でも役員の方と直接話せる機会もあり、若手の意見を聞こうしてくれる社風を感じます。また「人の和」を重んずる社風だと思います。

宮入：私は600人くらいの社員がいる会社なので、もっとシステムチックな面ではと思っていたのですが、部署間の隔たりがなく、その面でも働きやすい職場環境だと思います。



| 辛かったこと、苦労したこと

宮入：辛かったことや苦労したこと、それをどう乗り越えたかをお聞かせください。

末田：入社直後は、仕事をする上で必要となる建築の知識は奥深く、学習領域が幅広過ぎて途方に暮れたことがあります。でもだからこそ毎回理解・解決すると嬉しいし、やりがいもあります。今は地道に経験と知識習得を積み重ねることがいい建物を作るうえで重要だと認識しています。これは永遠の課題かもしれませんね。最近では、設計・積算・プレゼンテーションの一連の仕事を経験させていただきました。受注には至らなかったのですが、皆さんの力を借りながら問題点や施主さんが何を求めているかを突き詰めるなど、とても勉強になりました。

佐藤：覚悟していたのですが、それほど辛いと思うことはありません。今後仕事を覚えてくると、辛いことも出てくるのだと思います。

| ワークライフバランス

宮入：ワークライフバランスはいかがですか。

末田：私は一級建築士を目指していて毎週日曜日は学校に通っています。初めの頃はきつかったのですが、今は楽しく勉強しています。リフレッシュ方法としては、街の散策をしていい建築物やきれいなデザインの雑貨を見るのが好きで、趣味と癒しになっています。



佐藤：私は9時ごろに事務所を出ることが多いのですが、自分の時間は持てますね。

家に帰ると「箱庭づくり」に凝っています。完成品を眺めるといい気分転換になります。心理療法で箱庭療法というのがあるそうで、心理学科卒業の同期に話したら、「ここらの状態、大丈夫?」と云われました(笑)。

宮入：私は、今後の目標として家庭を持ちたいし、いずれは子供も欲しいと思うので、その時にどのようにうまく仕事と家庭とのバランスをとっていくかが大切なかなと思っています。総合職の女性で、働きながら育児をされている先輩はいないので、不安はあります。ただ、昨日副支店長ともお話ししましたが、「当社は育児と仕事が両立できるように、サポート体制をどんどん整備していく」と仰られ、本当に心強く感じました。当社にはそのような考え方の上司が多いので、漠然ではありますが「何とかなるかな」と楽観的に考えられるかもしれません。

今後当社にもたくさん女性が入って欲しいと思っていますが、若築建設で働くことを希望している女子学生の方に伝えたいことや、アドバイスはありますか。

末田：女性に限ることではありませんが、自分がやりたいことや目標を見極めて、それに向かって一生懸命取り組めばよい方向に向かうのではないかでしょうか。最後まであきらめずに就職活動を行ってほしいと思います。

佐藤：私は女性だからといって、それほど構えなくても大丈夫ということを伝えたいです。好きなこと、興味があることであれば、何があっても乗り越えられると思います。



| 今後の目標

宮入：今後の目標を、仕事面、プライベートそれぞれお聞かせください。

末田：仕事面では、将来は設計と積算、施工それぞれの知識を一段と深め、それらを網羅した積算や『ビルダビリティー（建築施工がしやすい）』な設計ができるようになりたいと思います。

プライベートでは、まず1級建築士の資格取得が第一です。その後に趣味の幅を広げて、やりたい事を思う存分楽しむのが目標です。

佐藤：今はまだ新入社員ですが、現場の知識、建築の知識を習得して、きちんと指示ができる、現場を回せる現場監督になりたいです。

プライベートではダンスが好きなので、仕事を時間内に終わらせて、ダンス教室に通えるようになります。

宮入：私は新卒採用を担当していますが、事務系のいろいろな仕事を経験した後、またいつか採用活動に携わって、自分の言葉で学生さんに伝えられるようになります。プライベートでは、建設業界では仕事と家事、子育てを両立している女性はまだまだ少ないのが現状ですが、自分自身がそれを実践して、女子学生が建設業界を目指せる模範や目標になれたらと思っています。



| 若築建設はどんな会社？

宮入：最後に若築建設はどんな会社だと思いますか。

末田：優しく真剣な人柄を含めて、温かい会社だと思います。

佐藤：私も温かく、アットホームな会社だと思います。本音で語らえる会社ですね。

宮入：私も学生さんに聞かれることが多いのですが、若築建設のことが好きで、いかに会社を良くしていくかを考えている方が多いです。社員の若築愛を感じます。

もう一つは、社員同士の距離が近く、家族的な会社だと思います。その点は超大手企業にはなかなか魅力では、と思います。

宮入：今日は個人的にもとても楽しい座談会になりました。このような機会を今後も継続したいと思います。プライベートでも是非やりたいですね。



九州女子大学・九州女子短期大学新棟改築工事

統括作業所長 千々谷 寿幸

毎日、一生懸命に仕事に取り組んでいますね。何事もいやがらず、忍耐強く仕事に取り組む姿勢を今後も忘れないでください。また、入社1年目で初めての建築工事現場なので、どのように建物ができあがっていくのかをしっかりと憶えてください。

男性社員が多い中、毎日毎日現場に出て大変だと思いますが、建物ができあがったときの喜びと感動を経験し、更に頑張ってください。

そして女性という立場を活かせるよう、女性ならではの見方や感性をもっともっと現場内に吹き込んでください。

佐藤 結希 職員への
アドバイス



活き活き職場の創造



社員が、心身ともに元気で、活き活きと個々の能力を発揮し、効率的に、楽しく働く職場環境の整備に、積極的に取り組んでいます。具体的には、育児・介護のための休業取得や、有給休暇取得の促進、社員の心身の健康サポートなど、ワークライフバランス(仕事と生活の調和)を促進し、働きやすい職場環境づくりにつとめています。

また、新入社員の集合教育や階層別の研修制度、OJT制度、公的資格取得奨励の実施、目標管理の制度など、社員が安心し、意欲を持って仕事に取り組める仕組みを整備しています。

働きやすい職場環境をめざして

仕事と子育て・介護の両立支援

仕事と子育て・介護の両立が可能な職場は、社員が安心して、個々の能力を最大限に発揮し、効率を高めることができます。

育児・介護支援制度の浸透をはかる

総務人事部

育児休業の制度は女性社員を中心に定着し、制度を利用して、育児と仕事を両立させている方が年々増えています。これは、社員がライフスタイルを確立し、個々のモチベーションを高め、よりよい仕事を行う上でも、有益な制度です。また会社にとっても、大切な人材を長期的に雇用していく上で重要な制度ととらえています。

もちろん制度があっても、それを運用しやすい環境作りが大切ですし、そのためには、今後男性社員の育児休業の取得も含め、全社員への制度の浸透をはかることが重要です。

また介護支援制度も、介護と仕事の両立をはかるためには重要なので、今後、制度を浸透させ、活用しやすい職場づくりを行っていきます。

障がい者の雇用と活躍

障がいをもつ方が障がいのない方と同様に、その能力と適性に応じて活躍できることをめざし、働きやすい環境を整え、障がい者の雇用促進をはかっています。

2015年6月時点での障がい者雇用率は2.44%(法定雇用率2.0%)です。

再雇用制度

60歳の定年を迎えた社員を再雇用する制度を導入しています。再雇用者は豊富な経験と、技術・技能の持ち主で、当社にとって貴重な財産です。その人たちの経験と技術・技能を次の世代へつなげていくことが重要です。

また、再雇用者を貴重な戦力として、様々な分野で活用することで企業力が高まるとともに、豊かなシルバーライフの創造にもつながります。

次世代育成支援対策

次世代育成支援対策推進法に基づく「第3回 一般事業主行動計画」として、当社は、①子の看護休暇を小学校卒業時まで拡大、②帰省休暇の新設、③有給休暇の取得促進および所定外労働時間削減のための措置の実施、の3つの目標を立てています。そのうち、②帰省休暇(現場勤務の単身赴任者が帰省する際に利用できる休暇制度)については2013年度に制度化しました。



育児休業を取得して

本社土木部 工務・購買課 福元 瑞穂

2013年10月に出産し、育児休業を取得しました。休業期間は1年間の予定でしたが、入所できる保育所がなく、約半年育児休業を延長しての復職になりました。現在は「家庭的保育事業」という、家庭的保育資格者の居宅に子供を預けています。

建設業は女性の少ない業界ですが、職場の方々の理解と支援をいただき、スムーズに育児休業を取得することができました。また復職後、時短勤務ができたことに大変感謝しています。

育児休業を取得して復職した今、家庭と仕事との両立に苦労することもありますが、母親としての生活も大切にしながら責任感をもって仕事をすることで、毎日がとても充実しています。

これからも若築建設の社員であることに誇りを持って、仕事に取り組もうと思います。



健康の増進

社員とその家族の幸せと、活力ある職場づくりには、心身が健康であることが重要です。のために当社は健康保険組合と協調して、様々な健康増進策に取り組んでいます。

健康保険組合では、病気の早期発見・早期治療に役立つ特定健診・特定保健指導を実施し、人間ドックの補助を行っています。また、ウォーキング大会、体育奨励事業など、社員とその家族のための様々な健康増進策を積極的に実施しています。

メンタルヘルスについては、医師や専門家によるカウンセリング体制を整えて、社員とその家族のメンタルヘルスの増進と、心の問題への早期対応につとめています。



体育奨励事業(バレーボール大会)



リレーマラソン



ぶどう狩りツアー



運動会



キャンプ&バーベキュー大会

若築建設労働組合

若築建設労働組合は昭和21年4月に結成されました。労働組合は会社とユニオンショップ協定を結んでおり、一定職級以下の正社員全員が労働組合に加入しています。労働組合の重点活動内容は、労働条件の改善、休暇取得促進、ワークライフバランスの実現、会社側との意見交換による現状の相互理解・把握などです。労働組合は、会社と協議を重ね、働きやすく、モチベーションを維持できる職場環境づくりにつとめています。

また組合員の意見や要望は、春闘などの賃金交渉や労使懇談会の場で会社側に伝えられ、よりよい職場づくりや待遇改善のために反映されています。



職場集会



意見交換会



若手組合員研修



安全な施工のために



労働安全衛生マネジメントシステム

「人間尊重」の基本理念や「安全は企業活動の根幹」とするモットーのもと、当社および協力会社の従業員とその家族の皆さんに安心していただけるよう、安全で快適な職場づくりにとめています。

当社は2004年から労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS18001)を運用し、現在、全支店の土木部門が認証を取得しています。

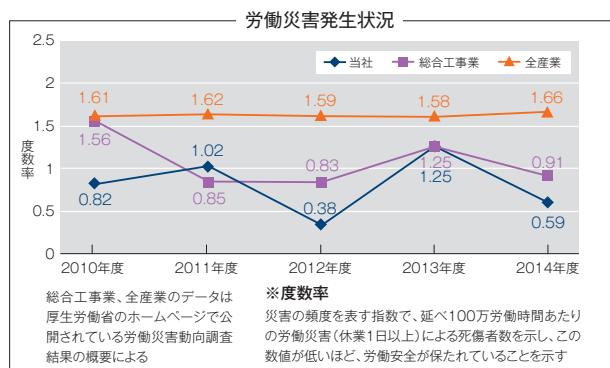
今後もこのシステムを有効に活用しながら継続的な改善につとめ、労働安全衛生に対する社員および協力会社の意識のさらなる向上をはかり、全社一体となって労働災害絶滅への取り組みを進めていきます。

労働災害絶滅への取り組み

災害防止重点項目は、過去20年以上にわたって蓄積してきた当社の災害統計をもとにして設定しています。

2014年度は『墜落・転落災害』『建設機械に起因する災害』『第三者災害』の防止を災害防止重点項目に設定し、安全衛生管理に取り組みました。

今後も、安全衛生基本方針に基づいて、「災害ゼロ」から「危険ゼロ」をめざし、さらに充実した安全衛生管理に取り組んでいきます。



安全衛生教育

本・支店勤務者も含めた技術系職員を対象に、全国34会場に分けて安全衛生教育を実施しました。2014年度は作業現場巡視での是正などにポイントをおいた研修とし、現場技術者ほぼ全員の557名が受講しました。



建設機械災害防止運動

建設機械災害を防止するため「若築3・3・3運動」や「グーパー運動」「誘導なしでバックしない運動」を推進しています。

特に「若築3・3・3運動」はクレーンによる吊り荷地切り時の接触やはさまれ事故などの防止に重点を置いた運動としてすべての作業所に徹底し、災害防止につとめています。



安全パトロール

社長をはじめとする役員パトロール、支店長や本支店安全環境部長のパトロール、協力会社との合同パトロールなどを定期的に実施し、労働災害防止の指導と安全意識の高揚をはかっています。また、女性社員の視点によるパトロールなども実施しています。



社長パトロール



女性社員パトロール

安全管理優良受注者表彰

2014年度の国土交通省関東地方整備局の一般土木工事に対し、安全対策が万全で無事故で工事を完成させたとして、関東地方整備局より局長表彰をいただきました。なお、この表彰は6年連続となります。

また、近畿地方整備局管内および四国地方整備局管内の工事においても安全対策に関する局長表彰をいただきました。

「あんぜんプロジェクト」への参加

厚生労働省が進める、労働災害のない日本をめざして働く方の安全に一生懸命に取り組み「働く人」、「企業」、「家族」が元気になる職場を創るプロジェクトです。当社もこのプロジェクトに参加して安全対策に積極的に取り組み、活動状況や災害発生状況を公開しています。



厚生労働省関連HPより



災害に備えて

日本では近年、東日本大震災における地震・津波の被害に加え、豪雨や大雪、台風、竜巻などの災害が多く発生しており、防災力向上への関心は年々高まっています。当社では、大規模災害の発生に対し、社会インフラの迅速な復旧など、建設会社としての社会的責任を果たすことができるよう防災基本方針を定め、首都圏直下型地震などに対応した事業継続計画(BCP)を策定し、防災体制を整備しています。

防災 基本方針

- 人命の安全確保を最優先する
- 事業活動の維持、早期復旧を図る
- 地域社会の防災活動や災害の復旧、各種支援活動に積極的に取り組む

自衛消防・救命活動

本社および各支店で災害自警団を組織し、災害発生時の消火・避難・救護体制を確立しています。そして、いざという時に備えて避難訓練や消火訓練などを行っています。また、応急救命講習会を実施し、救命技能認定者の養成を推進しています。本社・東京支店ビルでは多くの社員が応急救命講習を修了しており、東京消防庁より「救命講習受講優良証」が交付されています。



消火訓練



応急救命講習会



本社・東京支店の自衛消防隊が、東京消防庁目黒消防署が開催する審査会に参加し、災害時の情報伝達・人命救助・消防技術等の技術向上をはかっています。



救急業務の重要性の認識と、応急手当の普及向上に貢献したとして、2014年9月9日の「救急の日」に、東京消防庁より感謝状をいただきました。



地域防災への取り組み

災害時支援ボランティア

本社・東京支店では、東京消防庁の災害時支援ボランティアに登録して消防隊の後方支援に協力し、小学校の防災訓練で消火器やAEDなどの機材取り扱いの指導を補助したり、地域防災訓練で地域住民の方々と一緒に訓練を行うなど、積極的に活動しています。



小学校防災訓練



水防訓練

AEDの設置

万一の心臓疾患発症に備え、多くの作業所でAEDを設置し、取り扱いの指導を受けています。また、社員や工事関係者だけでなく広く近隣の皆様にも使用していただけるようAED設置について看板を掲げるなどご案内をしています。



事業継続計画

大規模災害発生時の業務復旧や災害復旧支援などの計画を定めた事業継続計画(BCP)を策定し、本社および支店で、災害に対する被害の軽減、早期の通常状態への復帰、および地域防災力の向上に取り組んでいます。

国土交通省では、災害発時における建設会社の基礎的事業継続力を評価、認定する制度を設けており、当社は、東北地方整備局、関東地方整備局、近畿地方整備局より認定を受けています。

帰宅困難者対策

東京都は2013年4月に、帰宅困難者対策を総合的に推進するための条例を施行しました。本社・東京支店ではこの条例に則って、滞留者のための水や食料、寝袋・マットや毛布などを備蓄し、安全確保後の徒步帰宅に備えた経路確認を行うなど、大規模災害発時に対応できる体制を整備しています。



徒步帰宅・経路確認訓練

地域社会とともに



建設業は社会基盤の整備を行っており、地域の環境づくりの一端を担っています。このような仕事を行う上で大切にしているのは地域の皆さまとの結びつきです。当社では、現場見学会や地域の美化・清掃、地域コミュニケーション、地域防災活動などを積極的に行ってています。

■ インターンシップ・現場見学会

インターンシップ

東京支店の火力変電所工事でインターンシップを行いました。北見工業大学の女子学生が参加し、東京湾内の港湾整備工事を見学した後、工事現場にて施工管理を実地体験しました。



現場見学会

大阪支店において大阪港の人工島築造工事で現場見学会を行いました。立命館大学の学生など13名が参加し、サンドドレン船の見学などを行いました。



現場見学会

名古屋支店の河川堤防地盤改良工事で、国土交通省主催による現場見学会に協力しました。名古屋工業大学の学生40名が参加し、液状化の原理や地盤改良工事について知識を深めました。



現場見学会

九州支店の航路浚渫工事で現場見学会を行いました。九州大学の学生など6名が参加し、当社の環境配慮船「若鷺丸」のハイブリッド動力システムなどの説明を受け見学しました。



■ 「青い羽根募金」への協力

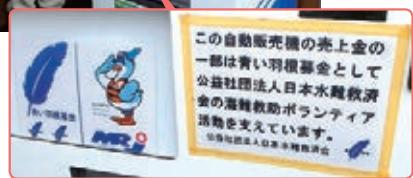
「青い羽根募金」は、日本水難救済会による募金活動で、募金はライフジャケットなど救助機材や救助船の燃料の購入等に充てられ、水難救助のボランティア活動をささえるものとなっています。

当社は2003年から全社を挙げて協力し、2012年には、国土交通大臣および海上保安庁長官の列席のもと、名誉総裁であらせられる高円宮憲仁親王妃



久子殿下より名誉総裁盾が授与されました。

現在は、作業所などに「水難救済会支援自動販売機」を設置する活動も行っており、2014年には、本社、名古屋支店、九州支店、長崎営業所などで、これまでの活動に対する感謝状をいただきました。



募金箱

感謝状の授与



本社



名古屋支店

九州支店

全国各地の活動

環境緑化 東京

東京都港湾局が進めている「海の森」プロジェクトの一環である「平成27年度 春の海まつり」に参加し、東京湾内の埋立地にシイやタブノキなどを植樹しました。



地域交流 横浜

横浜港赤レンガ倉庫広場で行われた「東京湾大感謝祭」に参加し、若鶯丸のパネル展示などを行いました。当社マスコットキャラクターの「わっくん」は子どもたちの人気者でした。



地域交流 福岡

毎年、北九州市若松区で開催されている「若松みなど祭り」に九州支店の有志が参加しています。



学習・現場見学 東京

東京湾内の埋立処分場建設工事と護岸工事で、小学生を招き港の役割や防災に関する学習として、津波の模型実験や土のう作り体験などを行いました。



清掃活動瀬戸内海

瀬戸内海沿岸で開催された「リフレッシュ瀬戸内」に、広島、岡山、徳島、香川、愛媛の各地で多くの社員が参加して清掃活動を実施しました。



社会活動

地域防災 宮崎

宮崎県細島港の防波堤築造工事において、災害用非常持出し用品を地元自治会に贈呈するなど地域防災に協力し、日向市から感謝状をいただきました。

